



War Cry

6月号

福音版
2025
June
No.2889

二〇二五年 六月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

GOOD NEWS とぎのこえ

人を造り変える 聖霊のダイナマイト

樋口 潔



皆さんは十勝監獄をご存知でしょうか？ 監獄とは刑務所のことです。北海道の開拓の歴史を語る上で、囚人たちの貢献は欠かせません。帯広の開拓も、十勝監獄の囚人たちの努力によって道路などのインフラが整備されました。現在は十勝監獄ではなく帯広刑務所が帯広市内にあります。私は最近まで、この帯広刑務所で受刑者への霊的な支援をおこなう教誨師を務めていました。受刑者と共に賛美歌を歌い、聖書の話をし、一緒に祈りを献げ、時には個別に相談に乗ることもあります。

囚人が集められ、坂本直寛牧師が神の愛について語りました。その結果、多くの囚人が自分の罪を悔い改め、約五百人がイエス・キリストを信じる決心をしました。囚人たちの泣き声が講堂中に響き渡り、それを見た看守たちも感動したと記されています。

当時、十勝監獄に収監されていた囚人の多くは重罪を犯した者たちでした。しかし、彼らは悔い改めてイエス・キリストを信じるようになり、全く変わり、喜びに満たされてお互いに愛し合い、模範的な囚人となったのです。五百人もの囚人が一気に救われ、その日を境に劇的に変わったのです。何が彼らをそこまで変えたのでしょうか？ それは神の霊である聖霊の働きです。

聖書の一節を紹介します。使徒言行録一章八節「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまでわたしの証人となる。」

これはイエス・キリストが弟子たちに与えた約束です。

聖霊が降ると力を受けると約束されました。そしてその約束どおり、五旬祭（ペンテコステ）の日に弟子たちの上に聖霊が降り、弟子たちは大胆に福音を宣べ伝えるようになりました。

イエス・キリストの弟子たちがあの日を境に変えられたように、十勝監獄の囚人たちも変えられました。そして、聖霊のダイナマイトの力で私たちも変えられるのです。

皆さんに質問します。皆さんが抱えている霊的な課題は何でしょうか？ 変わりたいのに変われない、同じ過ちを繰り返してしまっている、ということがありませんか？ 私たちは神の子イエス・キリストを信じ、神様に自分を明け渡し、聖霊に頼り、この聖霊のダイナマイトの働きで霊的な課題を解決していただくように祈り求めることができます。

聖霊の力を求め、聖霊に助けてもらいましょう。皆さんのうちに聖霊が豊かに働き、聖霊のダイナマイトによって皆さん一人ひとりが変えられることをお祈りしています。

（救世軍士官（伝道者））

帯広刑務所の前身である十勝監獄について調べている中で、「十勝監獄のリバイバル」という記事が目に残りました。その出来事が起こったのは明治四十二（一九〇七）年、今から約百二十年前のことです。十勝の開拓に入った人たちの中に、イエス・キリストを信じる人々がいました。また、十勝監獄にも所長をはじめ熱心なクリスチャンがいました。そして、明治四十年に宣教師のピアソン夫妻と坂本直寛牧師が十勝監獄を訪れました。

十勝監獄の講堂に八百人

わたしたちの生涯は 何を語るか

豊田 信行 さん

(単立ニューライフキリスト教会牧師)



妻のかなさんと

大阪・島本町にあるニューライフキリスト教会の牧師である豊田信行さん。伝道者だった父龍彦さんは若くして召天され、その姿はご家族に大きな問いかけを遺していきました。少年の日から、いま牧師として神の愛を伝える働きに至る、神と歩む道についての証言です。

私が九歳の時、巡回伝道者であった父が突然亡くなりました。土曜日の夕方、父は徹夜で祈るためにひとり山に入りました。翌日の日曜日、父の姿は教会にありませんでした。

父が山で徹夜の祈りをするようになったエピソードを聞いたことがあります。関西聖書神学校に在学中、同級生から、「豊田兄弟、将来の伴侶にと祈っている女性がいます。神の御

心なのか、祈ってほしい」と頼まりました。翌日、神学校中に父の声が響き渡りました。「神様、〇〇兄弟が〇〇姉妹に気があるようです。神様、二人の結婚は御心になつていてほしいようか。」また、ある時、近隣の方が「神学校内で喧嘩をしているみたいだ」と警察に通報されました。父の祈る大きな声が怒号に聞こえたようです。そのような出来事が続いたこともあり、父

は神学校の裏山で祈るようになったそうです。

「友よ、明日輝こう」

父の神学校時代、その悲しい生い立ちから、イエスとの劇的な出会い、救い、結婚、クリスチャンホームが築かれるまでの半生を描いた「友よ、明日輝こう」というドキュメンタリー映画が制作されました。神学校卒業後、父は巡回伝道者として日本各地の教会に招かれ、伝道集会でご用をされるようになりました。ドキュメンタリー映画が上映された後、本人が登壇し、伝道メッセージをストレートに語り、多くの決心者が起こされました。

神学校卒業後、約一年半が経った頃でした。奉仕先の教会の礼拝に父の姿がありませんでした。教会の方が心配し、父の所在を確認しようと各所を当たってくださいましたが、夕方になっても連絡がつきませんでした。警察に捜索願が出され、父の捜索が始まりました。教会へ向かう途中、事故に巻き込まれ、どこかの病院に搬送されているのか……、捜索は難航しました。

しかし、生前、父が遠くの山を指さしながら、「時々、あの山でお祈りしている」と話したことを、教会の方が思い出してくださいました。山の麓に父のバイクが停まっていた。懐中電灯を手に暗闇が覆う山中を「豊田先生、豊田先生」と父の名前を連呼しながら懸命に捜してくださいました。

山頂付近に大阪の街を眼下に見渡せる崖があり、黒い人影のようなものが見えました。次の瞬間、懐中電灯の光に照らされた父の姿が浮かび上がりました。父は祈っているようでした。豊田先生、山を下りる時間ですよ」と声をかけても返事がありません。父を起こそうとし、体に触れた時、すでに冷たくなっていました。父は祈りの姿勢のまま、息絶えていました。彼の前には聖書が開かれ、御言葉に赤線が引かれていました。

「だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。『わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、

ほふられる羊のように見られている』と書いてあるとおりである。

しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。」
(ローマ人への手紙8章35～37節、口語訳聖書)

突然の別れの後

父は別れを告げることなく、三十三歳の若さで逝ってしまいました。父が亡くなった時、二人の祖母、母、五人の息子が残されました。長男の私が九歳、八歳、七歳、一歳、生後二週間と続きました。父の突然の死は家族を悲しみのどん底にたたき落としました。

父との最後の思い出は、病室に母と生まれたばかりの弟を訪ねたことです。母を労る父の笑顔と、母の横で小さな寝息をたてながら眠っていた弟の姿を見た瞬間、なんとも言えない幸福感で心が満たされました。この時間がいつまでも続けばと願ったことを覚えていきます。



◇豊田信行さん プロフィール

1964年、大阪生まれの大阪育ち。9歳の時、父を亡くし、母子家庭に育つ。テキスタイル・デザイナーを辞して、献身の道へ。ハワイの日系人教会の牧師宅で暮らしながら、語学学校に通う。その後、Portland Bible Collegeに入学、将来の妻と出会う。ポートランド州立大学内の一室で日本人留学生のためにバイブル・スタディを始める。卒業後、ニューライフキリスト教会にてケニー・カールトン宣教師をサポート。1997年、主任牧師に就任し、今日に至る。趣味はエクササイズ、スノーボード、旅行、読書。三男の父。

NPO法人「a cup of water」代表理事。一般社団法人「モリユリ・ミュージック・ミニストリー」理事。「関西教会塾」ディレクター。「Leadership Builder Publication」代表。

◇主な著書 『父となる旅路—聖書の失敗例に学ぶ子育て』、『夫婦となる旅路—一心同体となる霊性の成長』、『イエスの心で祈る—主の祈り』

その幸せな時間からわずか二週間後、父は遺体となって自宅に戻ってきました。日曜日の夜、父の遺体が発見された時、私はすでに就寝していました。月曜日の朝、二階で寝ていた私は下の階の騒がしい音で目が覚めました。階段を降りていくと、玄関先には泣き崩れる人たちがいました。当惑しながら目を部屋の奥に向けて、二人の祖母と母がうなだれるように座っていました。その前に父が横たわっていました。ピクリとも動かない父を見た時、亡くなったことがわかりましたが、ショックで涙が出ませんでした。

大切な家族を突然死で失うと、喪失を悲しむ心備えができていないため、ショック状態に陥ってしまします。しばらくの間、毎朝、目を覚ますたびに父の死が夢だったのではないかと、うあつてほしいと願いました。しかし、父のいない現実には淡い願いは打ち砕かれ、何度も喪失の悲しみに襲われました。どれだけ悲しみを繰り返せば、父の死を受け入れることができるのか、少年の心は苦悩の中に置かれ続けました。



父の死が問いかけるもの

母は父を山に行かせてしまったことで自分を責めていたと思います。当時、母や祖母の苦しみを知る由はありませんでしたが、「もし、引き留めていれば夫は死ななかったはず」、そんな後悔の念に心が押しつぶされそうになっていたことを後になって知りました。

母は戦争孤児でした。幼い頃に児童養護施設に預けられ、父母を知らずに育ちました。父とは日本橋教会で出会い、悲しく、つらい生い立ちを抱えて生きてきた者同士、自然と惹かれ合いい、結婚へと導かれました。家庭の温もりを知らずに育った二人にとって、クリスチャン・ホームには神の愛が溢れていました。

所の友だちがお父さんとキヤッチボールをするのをうらやましく眺めていました。いつも、ひとりで壁にボールを当てて遊んでいました。父は神学校を卒業し、巡回伝道者としての働きが始まった矢先に亡くなってしまうのです。

祈りながら息絶えた父の死は殉教の死として語り継がれています。しかし、家族にとっては志の半ばまでも至っていない、無念の死のように感じられました。

青年になる頃には、喪失の悲しみは神への怒りとなっていました。神様が父をもてあそばれたように感じたからです。人々の救霊のために徹夜祈禱中に死んでしまったことに割り切れない思いだけでなく、理不尽さに怒りがこみ上げてきました。「父の人生は何だったのか？」と自問しても、答えは見つかりませんでした。

す。私はやがて、父の死の意味を問うことを止め、父の死が私に問うていることに心を向けるようになりました。長い歳月をかけて私の心は、父の生涯は神の完全なご計画の中にあつたと思われるように変えられていきました。転機となったのは、二十歳を過ぎ、デザイナーとして無我夢中に働いていた頃に経験した、神との個人的な出会いでした。

ある日曜日、義務感から出席していた礼拝の説教が終わり、賛美を歌い始めた時、突然、歌詞が神の語りかけとして強く心に迫ってきたのです。「私はあなたのために御子を与えた。あなたは私のために何をするか。」その瞬間、神のご臨在に圧倒され、涙がとめどなく溢れました。自分が父なる神の愛を拒み続けてきたことに心責められ、とっさに口から「神様、ごめんなさい」との言葉が出てきました。

父なる神は、独り子イエスを与えるほどに私を愛し、そして父を愛しておられた。父の死は決して見捨てられた哀れな結末ではないとの確信が与えられたのです。それは九歳の時から涙

とともに祈ってきたことへの、神の返答でした。

「信行、あなたはキリストのために生きているか？」と、父の死は、私が牧師となった今も問いかけてきます。

「彼は死にしましたが、その信仰によって今もなお語っています。」（ヘブル人への手紙11章4節、新改訳聖書二〇一七年版）

父の生涯は神の御手の中にあり、地上での生涯を終えた今でも力強く語りかけてくるのです。人生は寿命の長さではなく、何を語りかけてくるのかによって真価が問われるのでしょうか。私たちの生涯は何を語りかけるのでしょうか。



救世軍の青年のための集会で、参加者と語り合う（左端が筆者）



世界をみつめて

〈日本〉2024 年度街頭給食

2024 年度冬期街頭給食を 12 月～3 月に実施しました。

社会鍋募金に協力してくださる方々、祈り、応援してくださる方々の温かい愛に支えられ、活動できることを感謝いたします。現在の街頭給食は感染症



等の感染防止の対策から、利用方法の変更や一般のボランティア募集を一時休止していますが、最少人数の



救世軍とは？

救世軍は、世界 134 の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865 年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では 1895 (明治 28) 年に英国から士官 (伝道者) が派遣されて活動が始まり、今年で 130 周年を迎えます。各地で小隊 (教会にあたる)、病院、社会福祉施設 (児童養護、高齢者支援、女性自立支援、アルコール依存症者回復支援等) などを通して、神と人々を愛し仕える働きを進めています。

スタッフでも最善の働きができるよう対応しています。

冬期街頭給食は大手町、隅田川、上野、代々木等の各場所でおこない、今期の利用者数は延べ 3,600 人、前年度よりどの場所でも利用者は増加しています。2024 年度は女性、生活・食料困

窮者、高齢者の利用増加がありました。

街頭給食は、食を提供するだけの働きではなく、イエス・キリストを中心とした救世軍の使命を全うする場であると受け止めています。これからも救世軍に託された大切な街頭給食を守ってまいります。

フランシスコ教皇の逝去に際して

救世軍は、2025 年 4 月 21 日に 88 歳で逝去されたフランシスコ教皇を覚えて哀悼の意を表し、ローマ・カトリック教会および全世界のカトリック信徒の皆様へ神の慰めをお祈りいたします。イエズス会出身として、またラテンアメリカ出身として初めて教皇の座に就かれたフランシスコ教皇は、神と教会、そして世界への模範的かつ誠実な奉仕によって、永く記憶されることでしょう。「常に謙遜で、神の慈しみに重きを置く姿勢、環境保全への献身、貧しく弱い立場の人々への深い配慮は、偉大で永続する遺産を築かれました」と救世軍万国総督リンドン・バッキンガム大將は述べています。

また、救世軍はフランシスコ教皇が宗教間対話に揺るぎない姿勢で取り組み、エキュメニカルな対話を促進されたことに感謝しています。2019 年にバチカンでおこなわれた会談では、フランシスコ教皇は、4 歳の時、祖母と共に救世軍のメンバーと出会ったことがキリスト教奉仕の最初の学びであった、と語られました。救世軍との出会いを振り



2019 年、フランシスコ教皇と当時の救世軍万国総督ペドル大將

返り、「最も小さき兄弟姉妹への謙虚な奉仕の姿は、どんな言葉よりも雄弁でした」と述べられました。

特に、教皇は救世軍が街頭生活者や社会的弱者の支援、人身取引撲滅のために尽力していることに感謝の意を表されました。フランシスコ教皇は「利己主義と分断が蔓延する世界において、真の自己犠牲的な愛の高貴な香りは、今まさに必要とされる解毒剤となり得ます」と指摘されました。救世軍は教皇の励ましと祝福に深く感謝しています。

4 月 26 日の葬儀ミサには、バッキンガム大將と、イタリア及びギリシャ軍国司令官・バチカンへの救世軍大使であるモーガン大佐補夫妻が参列しました。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)



左の QR コードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます！ 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください！

世界の救世軍の指導者

リンドン・バッキンガム大將 及び
ブロンウィン・バッキンガム中將

今秋来日

11/22 (土) 午後 2 時 チャリティーコンサート
於：東京都中央区 日本橋公会堂

11/23 (日) 午前 10 時 聖別会 (礼拝)
於：東京都千代田区 日本教育会館 9 階

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月 1 日、広報版 / 奇数月 15 日
定 価 福音版 / 1 部 40 円、広報版 / 1 部 100 円
(税込) クリスマス特集号 (12 月 1 日号) / 1 部 100 円
振 替 00180 - 5 - 4400
発行兼 救 世 軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 03-3237-0881 (代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営 (左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。
- ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。
- ・相談を希望します。